

決算報告及び事業計画

2023年5月31日

株式会社免疫生物研究所

(証券コード:4570)

全社業績(連結)

(千円)	2022年 3月期 (第40期)	2023年 3月期 (第41期)	増減
売上高	647,576	794,621	+22.7%
営業利益 (△損失)	△122,219	58,373	黒字化
経常利益 (△損失)	△243,472	△149,503	関係会社における投資損失や棚卸資産評価損等を計上※
親会社株主に帰属 する当期純利益 (△損失)	△258,767	△289,731	関係会社における特別損失や特別利益等を計上※

※(2023年4月27日公表の「営業外収益、営業外費用、特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ」を参照

セグメント別業績

セグメント	売上高			営業損益			
	金額 (千円)	前年同期比		金額 (千円)	前年同期比		
		増減額 (千円)	増減率 (%)		増減額 (千円)	増減率 (%)	
抗体事業	790,600	+156,376	24.7	152,132	+167,090	—	
内訳	診断試薬サービス	678,780	+174,966	34.7	216,190	+157,741	269.9
	検査サービス	64,265	△21,818	△25.3	△3,497	+5,210	—
	TGカイコサービス	47,554	+3,228	7.3	△60,560	+4,138	—
遺伝子組換えカイコ開発事業※	—	—	—	△80,414	+14,841	—	
化粧品関連事業	4,021	△9,331	△69.9	△13,344	△779	—	

※遺伝子組換えカイコ開発事業は、研究開発のコスト管理を行っているため、売上高はありません。
注)各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

売上高増加要因

抗体関連事業の診断試薬サービスが牽引

【主力製品である、ELISAキット及び抗体の販売増加】

・海外販売におけるeマーケティング(SNS等)を活用した情報戦略の成果により、海外大手CRO企業や製薬企業および大学等の研究者からの引き合いが増加したことにより、大幅に販売数量が増加し、さらに円安の影響により、売上高は、前年に比べ大幅に増加

・国内外において、アルツハイマー関連抗体のまとまった売上を計上

【受託サービス】前年に比べ売上高は大幅に増加

【動物用体外診断用医薬品】牛海綿状脳症測定キット(BSEキット)の販売が順調に推移し、前年に比べ増加

営業利益黒字化要因

利益率の高い自社製品であるELISAキット及び抗体の売上高が大幅に増加したこと

貸借対照表(連結)

(百万円)	前期末	当期末	増減	主残高
流動資産	1,129	1,165	+35	現預金 614(+105)
固定資産	575	269	△306	投資有価証券 95(△304)
資産合計	1,705	1,434	△271	
流動負債	228	252	+23	借入金(長短計) 234(+0)
固定負債	108	103	△5	
負債合計	336	355	+18	※()は、前年差 単位:百万円
純資産合計	1,368	1,078	△289	
負債純資産合計	1,705	1,434	△271	

キャッシュ・フロー(連結)

(千円)	2022年3月期 (第40期)	2023年3月期 (第41期)
営業C/F	△93,204	26,458
投資C/F	△155,629	30,036
財務C/F	143,998	991
現金及び現金同等物の 期末残高	449,184	561,997

IBL 事業計画

数値目標 抗体関連事業

注1 医薬シーズの導出による収益は含まれていません

前回(2022.5.30)

(単位:百万円)	39期実	40期実	41期予	42期中	43期中
抗体関連事業(売上高)	588	634	740	840	920
診断試薬サービス	482	503	600	650	700
検査サービス	76	86	100	130	150
※TGカイクサービス	29	44	40	60	70
営業利益	△54	△14	黒字 80	150	200

今回(2023.5.31)

(単位:百万円)	39期実	40期実	41期実	42期予	43期中	44期中
抗体関連事業(売上高)	588	634	790	835	920	1,010
診断試薬サービス	482	503	678	720	780	850
検査サービス	76	86	64	75	90	100
※TGカイクサービス	29	44	47	40	50	60
営業利益	△54	△14	152	87	135	195

1. 41期実績の詳細につきましては、2023年5月12日公表の「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」を参照
2. 42期以降の予想は、41期まで別セグメントで報告していた「遺伝子組換えカイク開発事業」における開発コストを抗体関連事業に統合したため、営業利益が減少しております。

(2023年4月18日公表の「報告セグメントの変更に関するお知らせ」を参照)

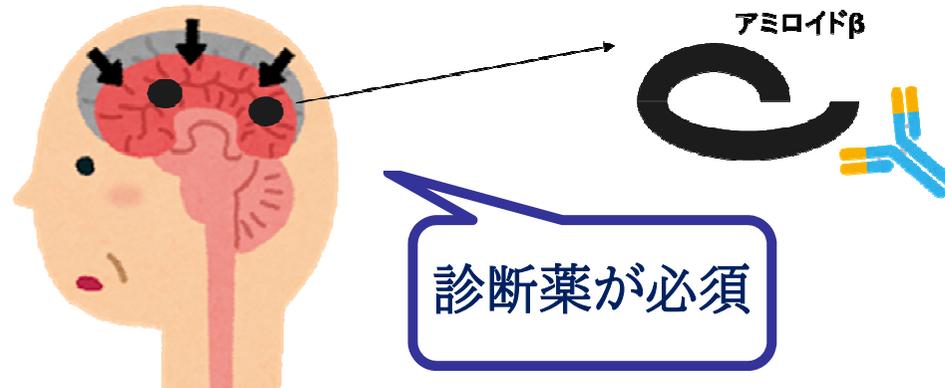
開発中の主なテーマと進捗状況

標的分子	CTP(Cochlin-Tomo-Protein)	グルカゴン	Titin-N7フラグメント	赤痢アメーバ	CTP(Cochlin-Tomo-Protein) イムノクロマト法
上市予定	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2024年3月期	未定
対象疾患	外リンパ瘻	血糖調節因子	神経筋疾患	赤痢アメーバ症	外リンパ瘻
申請区分	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅠ)	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅢ)	新規(クラスⅢ)
共同研究先	埼玉医科大学 試薬販売業者	群馬大学	神戸大学 昭和大学	海外企業	埼玉医科大学
前回進捗	保険収載後 販売開始予定	2024年3月期販売承認申請予定 研究開発中	2025年3月期販売承認申請予定 (認定試薬として販売を開始)	2023年3月期販売承認申請予定 研究開発中	研究開発中 イムノクロマト法
今回進捗	2022年7月1日付で、保険収載され販売を開始	2024年3月期販売承認申請予定準備中	神経筋疾患診断薬をめざし、認定試薬として販売を開始	2024年3月期上期に体外診断用医薬品製造販売承認申請予定	研究開発中 イムノクロマト法
IBLの役割	・試薬開発 ・受託製造	試薬開発 医薬品申請	試薬開発 医薬品申請	医薬品申請	・試薬開発 ・受託製造

上記の他に、SFTS関連、GIST関連の診断用医薬品原料の開発を検討しております。

当社のアミロイドβに対する各種の抗体は、数多くの論文で採用され、世界中の研究者が使用しております。

アルツハイマー病に対する抗体医薬が米国FDAで承認



米製薬企業バイオジェンと日本のエーザイが共同開発するアルツハイマー治療薬「アデュカヌマブ」が、アルツハイマー病に対する抗体医薬として米国FDAで承認されたことにより、アルツハイマー病に対する早期段階の診断薬が必要となります。

当社は、現在所有するアミロイドβ関連の抗体群を活用し、**国内外へ診断薬原料として展開してまいります。**

当社では、抗体作製技術を基盤として、治療用医薬品に適した抗体の創製に取り組んでおります。治療用医薬品開発においては、製薬企業各社がパイプラインを充実させるために医薬シーズに係る権利の譲渡又は許諾を受ける活動を積極的に展開していることを受けて、当社の人的資源と効率を鑑み、創薬ターゲットの探索及びそのターゲットに対する各種抗体の作製とそれらの抗体の薬効評価に特化しております。

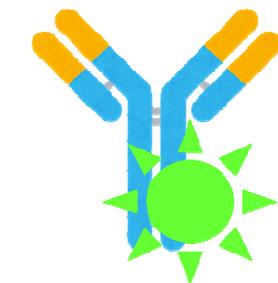
2021年2月16日に合併会社「AI Bio」
(持分法適用会社)を設立

「ABCONTEK社と、ダニ媒介性感染症であるSFTS(重症熱性血小板減少症候群)を治療するための抗体医薬品候補「ACT101」の共同開発について

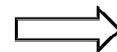
予定していたカニクイザルを使用した非臨床試験を一旦中止し、現時点で取得済みの試験結果を用いて早期の導出に注力してまいります(2023年3月14日公表の「連結持分法適用会社株式会社 AIBio の子会社化に関するお知らせ」を参照)。また、SFTSにおける動物用(ネコやイヌ等のペット)体外診断用医薬品について、検討を進めております。

国立大学法人徳島大学と胃や腸の消化管壁の粘膜下にある未熟な間葉系細胞に由来する「肉腫」の一種とされる、GIST(消化管間質腫瘍)を診断、治療するための抗体医薬品を研究開発中。製薬企業等への導出等を目指す。

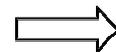
(アップデート)
今後の医薬品シーズ
開発や診断用医薬品
開発について、提携先
と協議を行っております。



腫瘍に特異的な抗体に
特殊な色素を結合させた
抗体医薬品を開発



患者
に
投与



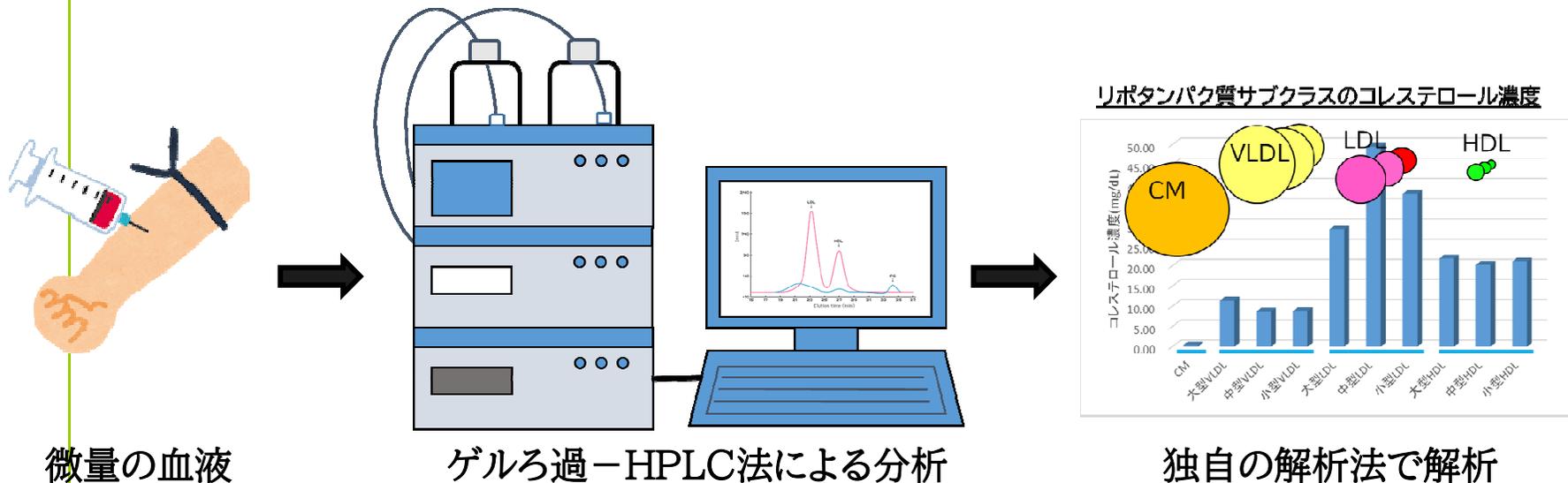
内視鏡検査によって色素を検出
⇒腫瘍の位置を特定(診断)
⇒近赤外線照射により腫瘍を治療

LipoSEARCHは、悪玉／善玉コレステロール・中性脂肪などを詳細に網羅的にプロファイリングする研究検査サービスです。

脂質代謝研究、脂質代謝関連新薬の非臨床試験、臨床開発試験、機能性食品開発、トクホ試験、などにおいて利用されています。

さらに、リポタンパク質の「粒子数」の分析が可能になり、動脈硬化や心疾患リスクの把握に役立つ、より詳細なデータが取得できるようになりました。

人間ドックなどの自由診療、さらにペットの検査も進めています！



微量の血液

ゲルろ過-HPLC法による分析

独自の解析法で解析

◆カイク繭による抗体やタンパク質の生産・販売

遺伝子組換えカイクにより生産された抗体の優位性

①非特異反応が低いこと②動物愛護の対象とならない③生産コストの低減

既存製品ラインナップ

ラミニン 511-E8 (iMatrix-511 Silk)

体外診断用医薬品原料 (大手診断薬メーカーへの原料供給)

Amyloid β 関連抗体 (ELISAキット原料)

新製品

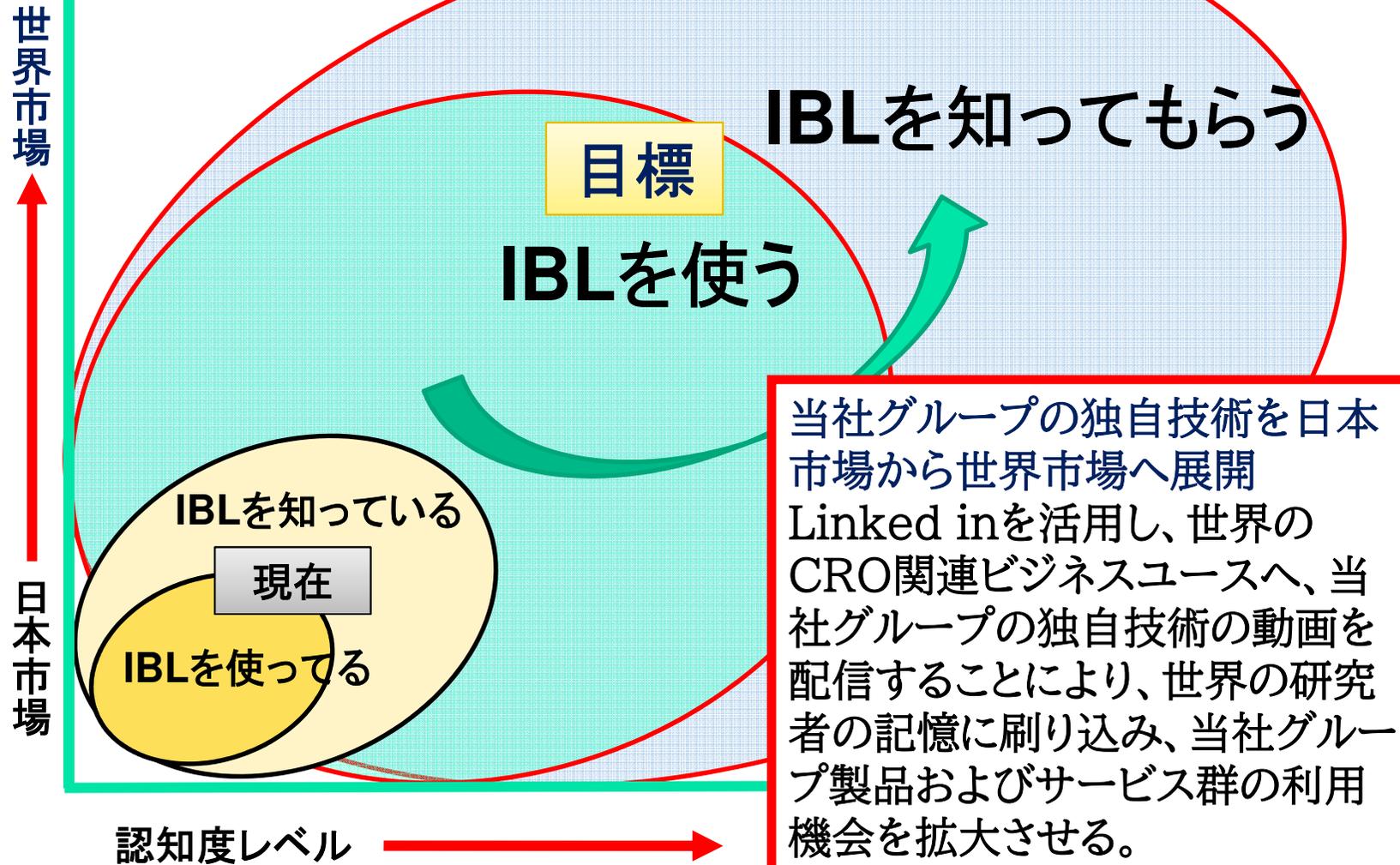
組換えヒトフィブロネクチン

病原体混入のリスクが低いことに加え、機能面でも優れていることが確認できたため、培養細胞の足場材として製品化※2023年3月13日より販売を開始

利益の創出

当該製品群は、今後も生産・製造方法の改良を行い、生産コストの低減をはかり、遺伝子組み換え製品の価値増大を目指す

戦略のイメージ



2023年4月27日公表の「報告セグメントの変更に関するお知らせ」を参照

- ・遺伝子組換えカイコによる医薬品原料生産に向けた新規開発を中止
- ・抗体関連事業における体外診断用医薬品原料等の開発に集中
- ・「遺伝子組換えカイコ開発事業」は、「抗体関連事業」へ統合

すでに遺伝子組み換えカイコにより製造をおこなっている製品は、今後も、「抗体関連事業」において、製造・販売及び製造方法の改良を継続してまいります。

数値目標 コスト管理を徹底し、研究成果のスピード化を図る

前回(2022.5.30)

(単位:百万円)	39期実	40期実	41期予	42期中	43期中
研究開発費	172	95	80	80	80

今回(2023.5.31) 研究項目の選択と集中の徹底

(単位:百万円)	39期実	40期実	41期実	「抗体関連事業」へ統合	
研究開発費	172	95	80		

数値目標 化粧品関連事業

前回(2022.5.30)

(単位:百万円)	39期実績	40期実績	41期予想	42期中計	43期中計
化粧品関連事業(売上高)	14	13	35	50	60
営業利益	△13	△12	3	10	15

今回(2023.5.31)

(単位:百万円)	39期実績	40期実績	41期実	41期中	42期中	43期中
化粧品関連事業(売上高)	14	13	4	15	20	30
営業利益	△13	△12	△13	3	5	10

黒字化

利益の拡大

黒字化

利益の創出

前回の目標数値には、中国市場へのBtoBの販売目標が含まれておりましたが、中国企業との取引において不確実要素が多いため、今回の目標から除外しております。今後は、中国への越境ECの構築を行い、SNSを活用して、中国国内のバイヤーの方々に直接情報発信し、販路拡大の準備をすすめてまいります。また、41期実績の詳細につきましては、2023年5月12日公表の「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」を参照ください。

ネオシルク®-ヒト型コラーゲン配合化粧品 「フレヴァンシリーズ」

○国内販売

国内通信販売においては、直接個人ユーザーへの販売から代理店販売に切り替え、販売代理店との情報共有を綿密に行い、販売拡大を目指してまいります。また、群馬県の温泉地において、高級旅館とコラボレーションし、SNSを活用した販売活動を行ってまいります。

○海外販売(中国)

中国市場へのBtoB販売につきましては、依然として直接現地代理人との情報交換が出来ず、目途がついておりませんが、中国への越境ECの構築を行い、販売を開始しております。今後につきましては、SNSを活用して、中国国内のバイヤーの方々に直接情報発信し、販路拡大の準備をすすめてまいります。

○海外販売(欧州・その他)

欧州現地代理人は、Eマーケティング(SNS)やAmazonへの出店、さらに国際展示会での展示をおこない、販売網を拡大し売上増加を目指しております。

今回(2023.5.31) 数値目標

2024年3月期(42期)～2026年3月期(44期)

(単位:百万円)	39期 (実績)	40期 (実績)	41期 (実績)	42期 (予想)	43期 (中計)	44期 (中計)
売上高 注1	602	647	794	850	940	1,040
抗体関連事業	588	634	790	835	920	1,010
化粧品関連事業	14	13	4	15	20	30
営業利益(△損失)	△240	△122	黒字化 58	90	140	205
抗体関連事業	△54	△14	黒字化 152	87	135	195
遺伝子組換えカイコ開発事業 (研究開発費)	△172	△95	△80	「抗体関連事業」へ統合		
化粧品関連事業	△13	△12	△13	黒字化 3	5	10
経常利益(△損失)	△310	△243	△149	90	注1 医薬シーズ導出による収益は含まれていない	
親会社株主に帰属する 当期純利益(△損失)	△318	△258	△289	80	注2 41期実績の詳細につきましては、2023年5月12日公表の「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」を参照	

【決算報告について】

2023年5月12日公表の「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」を参照ください。

【事業計画について】

2023年5月31日公表の

「事業計画&成長可能性に関する説明」を参照ください。

注意事項



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品申請の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。